

イエスは未来に何を計画しているのか？ 黙示録 21:9-27

待降節のこの3週間、クリスマス・イブに向けて、イエスについての3つの質問について考えてきました。イエスはなぜ処女から生まれたのか。イエスはなぜ幼子として来られたのか、そして、イエスの誕生は世界をどう救うのか。待降節はクリスマス・イブで終わりましたが、2025年最後の日曜日、イエスについてもう一つの質問について考えたいと思います。イエスの未来への計画とは何でしょうか。その問い合わせの答えは、今日の聖書箇所である黙示録 21:9-27 に見出すことができます。私たちの世界は何世紀にも渡り多くの変化を経験してきましたが、その一部は言語にも表れています。英語では、給料を稼ぐことを「ベーコンを家に持ち帰る」と表現します。その起源には諸説ありますが、最も古いものは 1106 年のイングランドにまで遡ります。とある修道院で 1 年間喧嘩をしなかった夫婦にベーコンを贈るという伝統が始まりました。別の説では、ベーコンを吊るせることが、どれだけの富を持っているかを示すことだったと言われています。いずれにせよ、私たちは今でもこの表現を使っていますが、意味は違います。日本語には「腹を割って話す」という表現がありますが、これは文字通り自分の腹をさらけ出すという意味です。かつては、文字通り衣服をたくし上げて、武器を隠していないこと、相手を傷つけたり殺したりする意図がないことを示す行為でした。今日でもその表現は使われていますが、単に率直にオープンに話すという意味で使われます。会話の中で誰かが死ぬことをほのめかすような要素はありません。こうしたこととは、過去 500 年ほどの間に物事がどのように変化したかを示す、興味深い小さな例に過ぎません。ですが、こうした変化や、何世紀にも渡って世界が経験してきたあらゆる変化は、イエスが将来もたらす変化とは比べものになりません。「イエスは未来に何を計画しているのか？」という問い合わせの答えは、イエスの未来は神の栄光への完全な招きであるということです。それを黙示録の 21 章に見ることができます。

この章を読み始めると、イエスが新しい住まいを築くことによって、神の栄光への完全な招きを与えてくださることが分かります。黙示録の 21:1-8 を読みましょう。「また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」「5 すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」6 また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。わたしは渴く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」」多くの人の永遠に対する見方はあまりにも狭すぎます。まるで漫画にあるような、天使が雲の上を漂っているようなイメージを持っています。ですが、聖書に描かれているのはそのようなものでは全くありません。今、私たちには、この私たちが住んでいる地球と、それが存在する宇宙があります。聖書は、死後、私たちの肉体は墓に入るものの、靈は即座に何らかの中間的な状態に入り、神と共にいるか、苦しみを受けるかを示しているように見えます。それらの場所を私たちは天国や地獄と呼びますが、今日の聖書箇所から、救われている者も救われずに神から離れたままにいる者も、それが最終的な状態ではないことが明らかです。この中間的な状態については、ルカの福音書 19 章にある、金持ちとラザロについてイエスが語られた話に最も明確に見ることができます。ルカの福音書 16:22-23 「しばらくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懷に連れて行かれた。金持ちもまた、死んで葬られた。23 金持ちが、よみで苦しみながら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懷にいるラザロが見えた。」明らかに、この二つの空間の間には私たちが考える以上に深いつながりがあり、肉体が墓に収められた後でも、私たちが認識で

きる人間らしさをそなえていることが分かります。聖書が描くイメージを過度に拡大解釈するべきではありませんが、明らかに一方の場所は苦しみの場所であり、もう一方は神がおられる「アブラハムの懐」にある場所です。

ですが、黙示録 21 章で語られている場所は、同じ場所のことではありません。ここでは、現在存在していない新しい天と新しい地において、全ての人が置かれる最終的な状態を見ます。ですが、本当に驚くべきことは、そこで天と地が同じ次元でつながっているということです。実際、神はこの新しい天を地上に降ろされます。それは聖なる都、新しいエルサレムと呼ばれていますが、これは明らかに教会を指しており、この新しい地に神と共にいるために全ての神の民が降りてくることを示しています。次の 9 節を読むと、黙示録の著者ヨハネが、この都を見るために連れていかれ「ここに来なさい。あなたに子羊の妻である花嫁を見せましょう。」語られることから、このことがはっきりと分かります。こうして、教会の靈的な夫であるイエスは、創りかえられた完全な世界で、ご自身の花嫁を迎え入れられます。イエスの最終的な場所は父なる神と共に御座につくことです。5 節と 6 節でこの場所についてこう記されています。「すると、御座に座っておられる方が言われた。「見よ、わたしはすべてを新しくする。」また言われた。「書き記せ。これらのことばは真実であり、信頼できる。」6 また私に言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。」」

ここで語られているのはおそらく父なる神ですが、この個所を黙示録 22 章と比較すると、イエスも自らが同じ立場におられることを示すため、同じ呼び名を用いておられることが分かります。黙示録 22:12-13 「見よ、わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」なんと素晴らしい住まいでしょうか。涙も、死も、嘆きも悲しみも、泣き叫び痛むこともありません。私たちの罪深い存在は、老いと弱さの呪いと共に完全に消え去ります。私たちのあらゆる必要は完全に満たされるので、6 節の終わりには「わたしは渴く者に、いのちの水の泉からただで飲ませる。」と記されています。誰がこの住まいに入るのでしょうか。7 節には「7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」とあります。これは、黙示録の始めて 7 つの教会に宛てられた手紙の中で神が用いておられる言葉と同じで、イエス・キリストを信じる者たち、教会を形作る者たちを指しています。私たちはどのようにして勝利者となるのでしょうか。イエス・キリストを通してです。そのことをローマ人への手紙 8:37-39 に見ることができます。「しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、39 高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」もし自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを主であり救い主として受け入れておられるなら、あなたは勝利者です。それは、あなたが何かをしたからではなく、イエスが十字架で死に、あなたのためには罪に打ち勝ち、墓からよみがえられたことで死に打ち勝ったからなのです。ですが、もしあなたがそうしておられないとしたら。8 節にあなたの運命が告げられています。

「8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にいる。これが第二の死である。」永遠に続く純粋な喜びではなく、救いのためにキリストのもとに行かなかったすべての罪人たちと共に、永遠に苦しむことになります。そのような罪人の中に自分が含まれているはずがないと、あらゆる言い訳を並べようとも、神はローマ人への手紙 3:23 にある「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができない」という言葉をあなたに突きつけます。この世で最も道徳的な人であったとしても神の聖さには及ぶことはないのですから、彼らが神の永遠の栄光にあずかることはありません。

キリストを知る私たちに、この章の残りの言葉は希望を与えてくれます。ですが、キリストを受け入れておられない皆さん、これはイエス・キリストと共におられない皆さんにとっては警告となります。なぜなら、最終的にご自分の民のために新しい住まいを準備することによって、神の栄光への道を開くことがおできになるのはイエスのみだからです。そのことを9節以降に見ることができます。「また、最後の七つの災害で満ちた、あの七つの鉢を持っていた七人の御使いの一人がやって来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。あなたに子羊の妻である花嫁を見せましょう。」10 そして、御使いは御靈によって私を大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のみもとから、天から降って来るのを見せた。11 都には神の栄光があった。その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった。12 都には、大きな高い城壁があり、十二の門があった。門の上には十二人の御使いがいた。また、名前が刻まれていたが、それはイスラエルの子らの十二部族の名前であった。13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。14 都の城壁には十二の土台石があり、それには、子羊の十二使徒の、十二の名が刻まれていた。」「15 また、私に語りかけた御使いは、都とその門と城壁を測るために金の測り竿を持っていた。16 都は四角形で、長さと幅は同じである。御使いが都をその竿で測ると、一万二千スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。17 また城壁を測ると、百四十四ペキスあった。これは人間の尺度であるが、御使いの尺度も同じであった。18 都の城壁は碧玉で造られ、都は透き通ったガラスに似た純金でできていた。19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、20 第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。21 十二の門は十二の真珠であり、どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは純金で、透明なガラスのようであった。」この箇所で一番私たちの注目を集めることとは、イエスが私たちのために準備してくださる、この都、この住まいの美しさでしょう。ですが、実際は、この箇所で繰り返し用いられ、この都を描写するのに真に重要な意味を持つことばは「門」です。そして、この箇所では、都を構成するものとして特に土台と門について述べられています。それぞれ12個ずつあり、12の門にはイスラエルの十二部族の、12の土台には十二使徒の名が刻まれていました。これは、来るべきメシアへの信仰によって救われた旧約の聖徒たちと、旧約の生贊では成し得なかった罪の贖いを成し遂げるために来られたメシアであるイエス・キリストへの信仰によって救われた新約の聖徒たちをつなぐものです。この都はイスラエルのためだけのものでも、教会のためだけのものでもなく、アダムとエバの時からあらゆる時代に生きた神の民すべてのためのものです。私たち皆が、共にこの新しい地と新しいエルサレムを分かち合うのです。アダムやエバ、ヨブ、アブラハム、ヨセフ、使徒パウロやヨハネ、フィベ、プリスキラ、マリア、ペテロ、あらゆる時代に生きた多くの敬虔な兄弟姉妹たちと交わす会話を創造できますか。そして、この美しい都にある美しい門の数々について、最後に一つ25節でこう述べられています。

「都の門は一日中、決して閉じられない。そこには夜がないからである。」これらの門は決して閉ざされることはありません。誰も神に近づくことを制限されることはないのです。神に近づくこと、神との交わりにおいて、特定の集団が他より優先されるということはありません。

それが最後の点につながります。イエスは、ご自分の民すべてのために新しい住まいを築かれることで、神に近づくことを可能にしてくださり、神とその栄光に完全に近づけるようにしてくださいます。22-27節を読みましょう。「22 私は、この都の中に神殿を見なかった。全能の神である主と子羊が、都の神殿だからである。23 都は、これを照らす太陽も月も必要としない。神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。24 諸国の民は都の光によって歩み、地の王たちは自分たちの栄光を都に携えて来る。25 都の門は一日中、決して閉じられない。そこには夜がないからである。26 こうして人々は、諸国の民の栄光と誉れを都に携えて来ることになる。27 しかし、すべての汚れたもの、また忌まわしいことや偽りを行う者は、決して都に入れない。入ることができるのは、子羊のいのちの書に記されている者たちだけである。」モーセが山で神と話した時、神の栄光があまりにも輝かしく、山を下りたモーセの顔も光り輝いていたこと、その輝きがあまりにも強かったため、民を怖がらせないようベールを被らざるを得なかつ

たことを覚えておられますか。今や私たち一人一人が、神の完全なる傾向を体験することができるのです。神の栄光は宮に閉じ込められることもなければ、私たちの罪によって少なくなった、弱められたりすることもないのです。コリント人への手紙第一13章で、パウロはクリスチヤンである私たちが、この地では鏡にぼんやり映るものとして神を見ているに過ぎないと記しています。第一コリント13:12にはこうあります。「12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。」私たちは今、神の栄光をほんの少し味わい、ぼんやりと見ているだけに過ぎません。ですが、いつの日か、ご自分の民としてイエス・キリストにあって英会陰の喜びを見出す子どもたちとして私たちを創り、救ってくださった創造主である神の栄光を完全に体験します。それを可能にしてくださるのはイエス・キリストであることに注目してください。この箇所で繰り返し呼ばれるイエスの名は子羊という名です。永遠においてすべてが明らかになった後でさえ、私たちが神のもとに近づくことを可能にするのは、神の子羊であるイエス・キリストの犠牲によるのです。長い年月の中、メシアを信じた私たちの名は皆、彼の書に記されています。23節によれば、神の栄光の光はキリストの犠牲を通して最も明るく輝きます。子羊が都の明かりだからであると記されています。そして最後に、すべての汚れたもの、罪深いものは決して神の栄光の中に入る事がないことが再び警告されています。本当のところは、イエス・キリストの義、つまりキリストへの信仰によって神の子羊の義なくしては、私たちの誰も神の栄光の中に入ることはできません。この新しい地には、神の子羊としてイエスが血を流されることなしには、人間が存在しないのです。

主の晩餐を祝うことで、十字架にかけられた子羊イエスの犠牲を覚えることほど、一年を締めくくるにふさわしいことはありません。もしあなただが、イエス・キリストを主であり救い主として知っておられ、キリストに従う者として洗礼を受けておられるなら、2025年最後の聖餐式に共に与ってください。まだイエスを個人的に知っておられず、信徒として洗礼を受けておられないのであれば、参加をお控えいただけますようお願ひいたします。親御さんたちは、準備ができるないお子さんたちを聖餐式に与らせないことで、その意味を理解させることができるかと思います。祈りをささげた後、執事が礼拝堂の四隅でパンとジュースをお配りします。その後、共に晩餐に与ります。ですが、最後に私たち皆が答えられるはずである質問を皆さんに問いたいと思います。あなたは、イエスがご自分を知るすべての人々のために準備しておられる、この永遠の住まい、永遠の内に居場所を持っておられるでしょうか。祈りましょう。

What is Jesus's plan for the future? Revelation 21:9-27

For the last three Sundays as we have been observing Advent, we have asked three different questions about Jesus leading up to Christmas Eve... why did Jesus need to be born of a virgin... why did Jesus have to be a human baby... and how did Jesus's birth save the world? Even though Advent ended with Christmas Eve, I want to take this last Sunday in 2025 to ask one more question that needs to be answered about Jesus. What is Jesus's plan for the future? The answer to this question is found in our passage today, Revelation 21:9-27. Our world has seen a lot of changes throughout the centuries, some that we can see in our languages. In English, we talk about being "bringing home the bacon," when we talk about making a paycheck. There are a couple different origin stories for this, but one goes back as far as 1106AD in England when a local monastery began a tradition of gifting a bacon to married couples who said they didn't fight for an entire year. Another tradition says that being able to hang a bacon up was showing off how much wealth you had. Either way, we still use the phrase but with different meaning. In Japanese there is a phrase HARAWOWATEHANASU (はらをわってはなす) that literally means "exposing one's belly." Literally you would life your garment to show that you didn't have any weapons and no intent to hurt or kill someone. Today, that phrase is still used, but it just means to speak frankly and openly. There is no underlying implication that someone may die in the conversation. Those are just interesting and small examples of how things have changed in the last 500 or so years. But these changes and all the other changes that the world has experienced over the centuries are nothing compare to what Jesus will usher in in the future. You see the answer to the question, "what is Jesus's plan for the future?" is that **Jesus's future is to give full access to the glory of God!** That's what we see in Revelation 21.

As we begin reading this chapter, we see that Jesus will give full access to the glory of God, **By establishing a new home.** Let's read Revelation 21:1-8. **21** Then I saw a new heaven and a new earth, for the first heaven and the first earth had passed away, and the sea was no more. **2** And I saw the holy city, new Jerusalem, coming down out of heaven from God, prepared as a bride adorned for her husband. **3** And I heard a loud voice from the throne saying, "Behold, the dwelling place^[a] of God is with man. He will dwell with them, and they will be his people,^[b] and God himself will be with them as their God.^[c] **4** He will wipe away every tear from their eyes, and death shall be no more, neither shall there be mourning, nor crying, nor pain anymore, for the former things have passed away."// **5** And he who was seated on the throne said, "Behold, I am making all things new." Also he said, "Write this down, for these words are trustworthy and true." **6** And he said to me, "It is done! I am the Alpha and the Omega, the beginning and the end. To the thirsty I will give from the spring of the water of life without payment. **7** The one who conquers will have this heritage, and I will be his God and he will be my son. **8** But as for the cowardly, the faithless, the detestable, as for murderers, the sexually immoral, sorcerers, idolaters, and all liars, their portion will be in the lake that burns with fire and sulfur, which is the second death." To many people, their view of eternity, is way too small. We have this almost cartoon like idea that we will some sort of angel floating around on a cloud. But that is not at all what the Bible pictures. Currently, we have the earth that we dwell on, and the universe that this world hangs in. And the Bible seems to describe a current situation where our bodies are in the grave once we die, but our spirits immediately are in an intermediate state of some sort that is either with God or in torment. We describe these places as Heaven or Hell, but given our passage today, it is clear that this is not our final state for either those who are saved

or those who remain unsaved and apart from God. We see this intermediate state most clearly in Jesus's account of the rich man and Lazarus in Luke 19. [Luke 16:22-23 says, 22 The poor man died and was carried by the angels to Abraham's side. The rich man also died and was buried, 23 and in Hades, being in torment, he lifted up his eyes and saw Abraham far off and Lazarus at his side.](#) Clearly, there is more closeness between these two spaces than we like to consider, and even though our bodies are still in the grave, somehow, we still have a knowable human look to us. We should be careful to not go too much further than the pictures the Bible gives us, but clearly one is a place of torment and one is a place of being in "Abraham's side" where God is.

But that is not the place being discussed in Revelation 21. Here we see the final state of all humanity that will exist in a new heaven and new earth that do not currently exist. But what is really amazing is that now Heaven and earth are fully connected in the same dimension. In fact, God brings this new Heaven down to earth. It's called the holy city or New Jerusalem, but it clearly is pointing to the church, all of God's people coming down to be with God in this new Earth. It becomes really clear when we read the next verse, verse 9 when John the writer of Revelation is taken to see this city and it says, "[Come, I will show you the Bride, the wife of the Lamb.](#)" So Jesus, the spiritual husband of the church, now receives his bride in this recreated perfect world. His final place is on the throne with God the Father. We see in verse 5 and 6 this location. [5 And he who was seated on the throne said, "Behold, I am making all things new." Also he said, "Write this down, for these words are trustworthy and true."](#) [6 And he said to me, "It is done! I am the Alpha and the Omega, the beginning and the end.](#)

The speaker here is likely God the Father, but when we compare this with Revelation 22, we see Jesus use the same designation for himself to show he is also in the same position. [Revelation 22:12-13 says, 12 "Behold, I am coming soon, bringing my recompense with me, to repay each one for what he has done. 13 I am the Alpha and the Omega, the first and the last, the beginning and the end."](#) And what a home this is! No tears! No death! No mourning and grief! No crying and pain! Our sinful existence is completely gone along with the curse of aging and weakness. Any need we have will be satisfied completely and freely so the end of verse 6 says, [To the thirsty I will give from the spring of the water of life without payment.](#) Who is it that gets this home? Verse 7 says, [7 The one who conquers will have this heritage, and I will be his God and he will be my son.](#) This is the same phrase that God uses in each letter to the 7 churches that begins the book of Revelation showing us that this is believers in Jesus Christ, those who make up the church. How do we become conquerors?- Through Jesus Christ! We see this in [Romans 8:37-39. 37 No, in all these things we are more than conquerors through him who loved us. 38 For I am sure that neither death nor life, nor angels nor rulers, nor things present nor things to come, nor powers, 39 nor height nor depth, nor anything else in all creation, will be able to separate us from the love of God in Christ Jesus our Lord.](#) If you have repented of your sin and accepted Jesus Christ as your Lord and Savior, then you are conqueror – not because of anything you did, but because Jesus died on the cross and conquered sin for you and then conquered death by rising from the grave! But what if you haven't done that. Verse 8 tells your fate...[8 But as for the cowardly, the faithless, the detestable, as for murderers, the sexually immoral, sorcerers, idolaters, and all liars, their portion will be in the lake that burns with fire and sulfur, which is the second death.](#)" Rather than pure joy that lasts for eternity, you will be suffering for eternity with every other sinner who never turned to Christ for salvation. No matter what excuse you find to try to convince yourself that you are not

included in that list of sinners, God comes back to you with the words of [Romans 3:23](#) that all of us have sinned and fall short of the glory of God. The most moral person on earth falls short of God's holiness so they will not take part in his eternal glory.

For those of us who know Christ, the words of the rest of this chapter give us hope, but for those of you who have not accepted Christ, be warned, this is your fate without Jesus Christ. Because only Jesus gives access to the glory of God, ultimately by establishing a new home **which exists for all his people**. We see this as we continue with verse 9. ⁹Then came one of the seven angels who had the seven bowls full of the seven last plagues and spoke to me, saying, "Come, I will show you the Bride, the wife of the Lamb." ¹⁰And he carried me away in the Spirit to a great, high mountain, and showed me the holy city Jerusalem coming down out of heaven from God, ¹¹having the glory of God, its radiance like a most rare jewel, like a jasper, clear as crystal. ¹²It had a great, high wall, with twelve gates, and at the gates twelve angels, and on the gates the names of the twelve tribes of the sons of Israel were inscribed—¹³on the east three gates, on the north three gates, on the south three gates, and on the west three gates. ¹⁴And the wall of the city had twelve foundations, and on them were the twelve names of the twelve apostles of the Lamb.// ¹⁵And the one who spoke with me had a measuring rod of gold to measure the city and its gates and walls. ¹⁶The city lies foursquare, its length the same as its width. And he measured the city with his rod, 12,000 stadia.^[a] Its length and width and height are equal. ¹⁷He also measured its wall, 144 cubits^[b] by human measurement, which is also an angel's measurement. ¹⁸The wall was built of jasper, while the city was pure gold, like clear glass. ¹⁹The foundations of the wall of the city were adorned with every kind of jewel. The first was jasper, the second sapphire, the third agate, the fourth emerald, ²⁰the fifth onyx, the sixth carnelian, the seventh chrysolite, the eighth beryl, the ninth topaz, the tenth chrysoprase, the eleventh jacinth, the twelfth amethyst. ²¹And the twelve gates were twelve pearls, each of the gates made of a single pearl, and the street of the city was pure gold, like transparent glass. The beauty of this city, this home, that Jesus establishes for us is what grabs our attention probably most in this passage. But actually the most often repeated word used in this passage describing the city that becomes really significant is the word, GATES. And here in this passage, there are specifically two structural parts of the city named, gates and foundations. There were 12 of each, and on the 12 gates were the 12 tribes of Israel, and on the foundations were the 12 apostles. This connects the Old Testament saints saved through their faith in a coming Messiah with the New Testament saints saved through the faith in Jesus Christ, the Messiah who came to do what all the Old Testament sacrifices could not do – atone for our sin. This city is not just for Israel, and its not just for the church, it is for all the people of God who from all the ages since Adam and Eve! All of us will share in this new earth and this New Jerusalem together! Can you imagine the conversations you will be able to have with people like Adam, Eve, Job, Abraham, Joseph, the Apostle Paul or John or Phoebe, or Priscilla or Mary, or Peter, and so many godly men and women from all time?!? And one final thing about all these beautiful gates in this beautiful city...verse 25 tells us, **and its gates will never be shut by day—and there will be no night there.** These gates will never close! No one will be restricted from access to God! There is no one group of people with more access or better experience of God.

And this leads to our last point. Jesus gives access to the glory of God, by establishing a new home, which exists for all his people, **and allows complete access to God and his**

glory! Let's read verse 22-27. ²² And I saw no temple in the city, for its temple is the Lord God the Almighty and the Lamb. ²³ And the city has no need of sun or moon to shine on it, for the glory of God gives it light, and its lamp is the Lamb. ²⁴ By its light will the nations walk, and the kings of the earth will bring their glory into it, ²⁵ and its gates will never be shut by day—and there will be no night there. ²⁶ They will bring into it the glory and the honor of the nations. ²⁷ But nothing unclean will ever enter it, nor anyone who does what is detestable or false, but only those who are written in the Lamb's book of life. Do you remember Moses on the mountain talking to God, and how the glory of God was so bright that he was shining when he came off the mountain and it was so bright he wore a veil so that it wouldn't scare the people. We now, all of us get to experience the full glory of God. God's glory is not confined to a temple nor is his glory diminished in any way or clouded by our sin. In 1Corinthians 13, Paul describes our current state on earth even as Christians as seeing God through in a dim mirror.

1Corinthians 13:12 says, For now we see in a mirror dimly, but then face to face. Now I know in part; then I shall know fully, even as I have been fully known. We can only get a taste of God's glory now, a dim picture. But one day, we will fully experience the glory of our Creator, the God who made us and saved us so we could be his people and his son or daughter to find eternal joy in Jesus Christ. Notice that it is Jesus Christ who makes this possible. There is a name that Jesus is called by over and over again in this passage – the lamb. Even in eternity when all is said and done, what gives us access to God is the sacrifice of the lamb of God, Jesus Christ. The names of all of us who have put our faith in the Messiah through centuries of history are written in HIS book. The light of the glory of God shines brightest through Christ's sacrifice according to verse 23 – the lamp of God's glory is the Lamb of God. And finally, we come again to the warning that nothing that is unclean or sinful will ever enter into God's glory. And the truth is that without the righteousness of Jesus Christ, the lamb of God that we receive by faith in him, none of us could enter God's glory. This new earth would have no humans without Jesus shedding his blood as the lamb of God.

What a fitting way to close out this year by remembering the sacrifice of that Lamb, Jesus on the cross at this communion table of the Lord's Supper. If you know Jesus Christ as your Lord and Savior and have been obedient by being baptized as a follower of Christ, then I invite you to join in this last Communion of 2025. If you don't yet know Jesus or been baptized as a believer, then I would ask you not to participate. Parents, children come to understand the importance of this ordinance by not being allowed to participate when they are not ready. After I pray the Deacons will serve the bread and the juice from the 4 corners of the sanctuary and we will eat and drink together. But I want to close with one question that all of us should be able to answer. Will you have a place in this eternal home, this eternal UCHI, that Jesus is preparing for all who know him? Let's pray.